

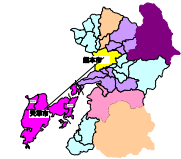
【地域精神保健フォーラム】

地域における精神危機対応事例
～ 34条移送事例～

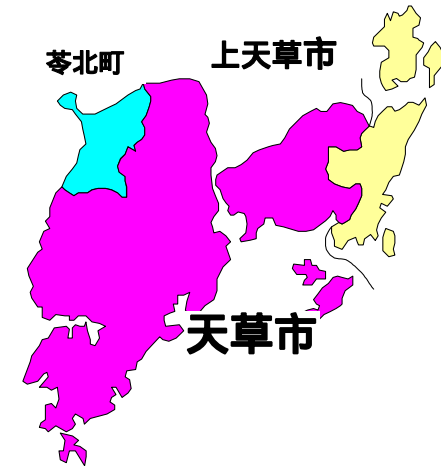


熊本県天草保健所
村崎丈子

天草地域の概況



人口:138,000人
基幹産業
漁業・農業・観光
市町数:2市1町
高齢化率:30.6%



管内の社会資源

- 精神科病院 (3カ所・病床数707)
- クリニック (3カ所)
- 精神障害者生活訓練施設 (1カ所)
- 通所授産施設 (1カ所)
- 地域生活支援センター (1カ所)
- 共同作業所 (2カ所)
- 共同住居 (3カ所)

警察 (3警察署)

24条通報による27条診察と措置入院
(天草圏域)

	H16	H17	H18
24条通報件数	17	13	15
27条診察件数	4	8	3
措置入院件数	3(2)	7(2)	2(2)

()は管内の病院に入院した数

H18は12月末

事例の紹介

1. 平成17年5月～平成17年8月まで
地域保健活動相談としての対応

2. 平成18年9月～現在まで
危機対応事例としての対応

5

事例紹介

年齢・性別	26歳 男性
病名	統合失調症(強迫症状あり)
相談の主訴	暴言(たまに暴力)・強迫症状・ひきこもり
家族 現病歴	4人(本人・父・母・祖母) 小学高学年にいじめにあい、中学は不登校、 16歳時、家庭内暴力がエスカレート、家族での対応が困難となり精神科病院に入院(1年半) 退院後通院はなし。定時制高校卒業(23歳)、その後、徐々にひきこもり状態になる、外出は年に1～2度 母親には敬語を使わせ命令に従わないと暴言、暴力、罰金を取っていた。手洗いや入浴時間が長かった。

関わりの経過(1)

H17.5 父親の来所

(相談内容) 最近母親に対する暴言・暴力がある
近所に迷惑をかけるようになると困る

H17.6 囑託医による精神保健相談(家族相談)
薬物療法のすすめ

H17.8 父親の来所や電話による相談
・父親が本人へ気持ちを伝えること、親子関係の修復
・地元の医療機関の受診勧奨
・肛門科受診の機会を利用して精神科の受診できるよう試み

(緊急性はないと判断) 終結とした

7

かかわりの経過(2)

H18.9 おじ来所

(相談内容) 父親が手術のため入院する予定
・母親に対する暴力がエスカレートしている
・本人の食事が少ない どうにかしたい

危機介入手引きの使用

父親との連絡調整、本人の状態の確認

H18.10.16

父親来所相談

・熊本市にある精神科病院に入院させたいが家族では連れて行けない。
・入浴が40時間となり、睡眠・栄養も十分

でない

保健所判定会議の実施

判定会議で34条移送を考慮し調査実施

8

34条移送 経過(1)

H18.10.17

事前調査の実施(家庭訪問)

家族と面接

本人は、入浴中(24時間)

診察・移送先の病院の手配

- ・診察は17年6月に精神相談を担当した囑託医に依頼
- ・移送先の病院は、家族の希望を考慮し熊本市内の病院へ依頼
- ・移送の依頼(地元の病院)
- ・本庁に連絡し県警本部と協議後、天草警察署に臨場の依頼

9

34条移送 経過(2)

H18.10.18

指定医による診察

45分くらいかけ診察、

「清潔」が気になる様子。会話できる状態

医療保護入院が必要である

搬送

・地元の精神科病院の協力により、病院車で

応急入院指定病院への搬送

所要時間は3時間、

不満な様子はあるものの質問する等

医療保護入院となる

10

[移送対象者]

・入院治療が必要と判断されるが、地域精神保健活動において説得を尽くしても入院を拒み続け、家族等が病院まで連れて行けない者で、これまで医療にかかったことのない初発のケース及び治療中断で真に移送の必要なケース

34条実施状況

	H16	H17	H18
熊本県	5	5	8
熊本市(再掲)	5	5	7
天草圏域	0	0	1

11

事例の対応をふりかえって

- ・地域保健活動の限界と危機介入のタイミング

保健所精神保健業務における危機介入手引き(案)

感想

- ・手引きを事例の対応に生かしたこと

- ・取り組み～危機介入対応を目的とした医療機関との連絡会

の連絡会

- ・対応の経験の継承

12